

2022年3月期 第2四半期 決算説明会

2021年10月28日

 大同特殊鋼株式会社

<目次>

2022年3月期第2四半期決算(2021年4月～9月)

21年4-9月期決算の概要

売上高・営業利益推移（21年度第2四半期実績）

21/4～9 営業利益の変化要因（前年同期対比）

主要製品21年度概況①

主要製品21年度概況②

セグメント別売上高・営業利益（前年同期差）

21/4～9 主要セグメント営業利益変化（前年同期比）

21/4～9 経常利益・当期純利益について

総資産、有利子負債、D/Eレシオ

2022年3月期通期見通し

21年度見直し計画の概要

主要市場の動向<自動車関連需要>

21年度利益計画の前提（市況）

原料市況（鉄スクラップ・ニッケル）

21年度通期 連結業績見通し

p.1	21年度 営業利益の変化要因（前年度比）	17
2	セグメント別売上高・営業利益（前年度差）	18
3	21年度通期 連結業績見通し（半期別）	19
4	セグメント別売上高・営業利益（半期別・上下差）	20
5	21年度 経常利益・当期純利益について	21
6	配当について	22
7	キャッシュ・フロー	23
8	設備投資	24
9	ESGの取組み	25-29
10	<u>F a c t B o o k</u>	30-32
11		
12		
13		
14		
15		
16		

**2022年3月期
第2四半期決算
(2021年4月～9月)**

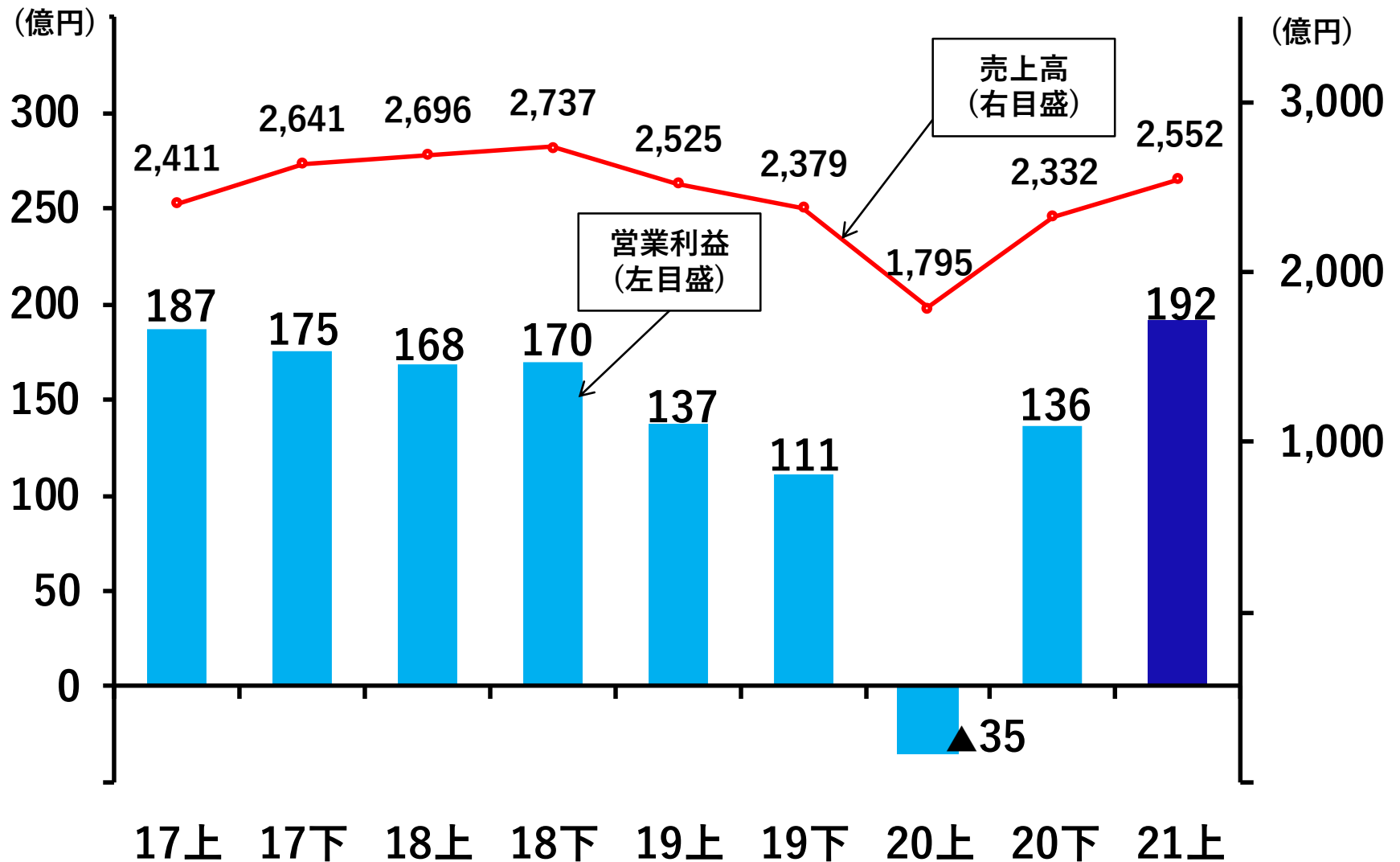
21年4-9月期 決算の概要

(億円)	20年度 4-9月期	21年度 4-9月期	前年同期比
売上高	1,795	2,552	+757
営業利益	▲35	192	+227
経常利益	▲21	206	+227
当期利益 ^(※)	▲23	128	+151

※：親会社株主に帰属する当期純利益

- 新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前年から、自動車関連需要を中心に回復し増収増益も、足元では半導体不足やサプライチェーンの寸断により回復のペースは鈍化。
- 鉄スクラップを中心とした原燃料価格は高騰、一時的な収益悪化要因に。

■ 売上高・営業利益推移(21年度第2四半期実績)



21/4～9営業利益の変化要因（前年同期対比）

(億円)

20/4-9 営業利益		▲35	
前年同期対比変化	原燃料市況	-188	
	数量変化		+241
	価格変化		+93
	内容差他		+55
	変動費		+41
	固定費	-24	
	決算期変更		+9
	合計	-212	+439
21/4-9 営業利益		192 (+227)	

変化内訳

原燃料市況

・鉄屑/合金コスト上昇、エネルギーコストは良化

数量変化

・特殊鋼鋼材を中心に全ての製品で数量回復

価格変化

・鉄屑/合金サーチャージによりプラス
・スライドギャップ影響は△33

内容差他

・工具鋼の回復、半導体関連好調もエンジニアリングが低迷

固定費

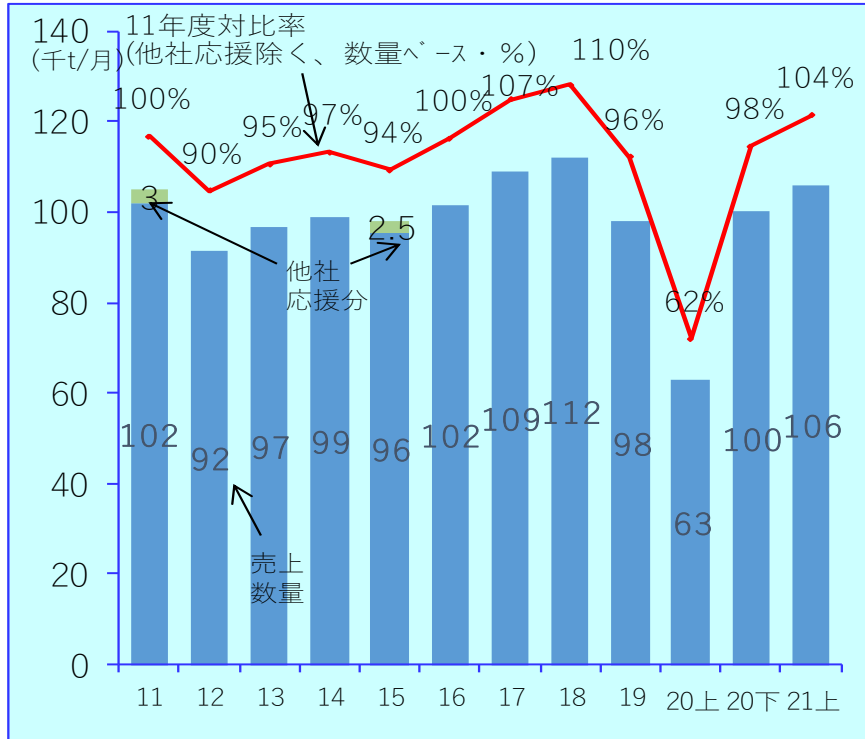
・生産回復により発生コスト増

■ 主要製品 21年度概況①

特殊鋼鋼材

< 需要環境 >

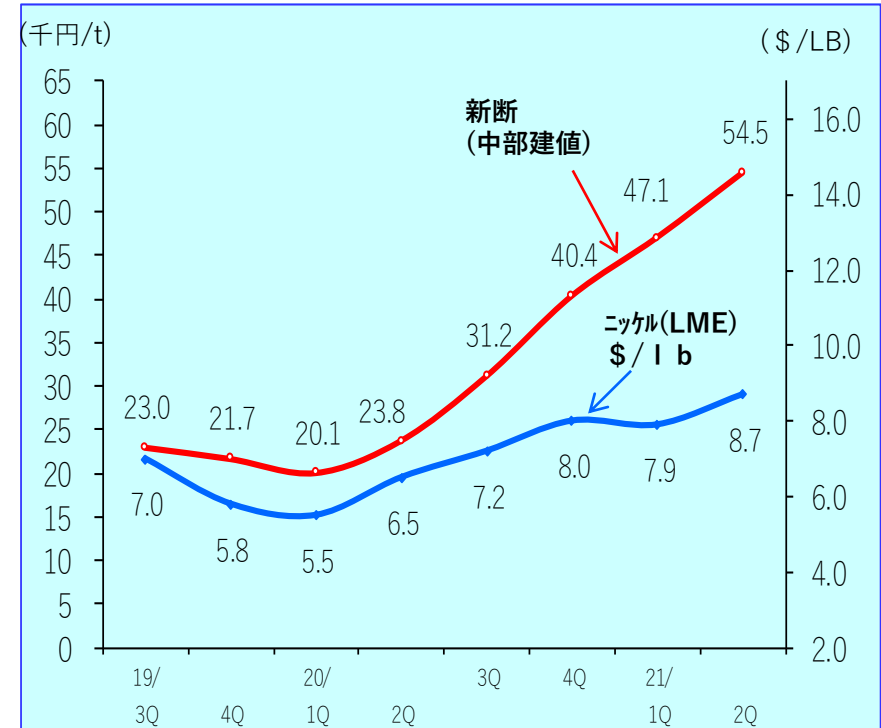
鋼材売上数量(単体)



➢ 20下より自動車を中心に受注急回復。
21上は構造用鋼・ステンレス・工具鋼
とも更に数量増

< 原材料市況 >

鉄スクラップおよびニッケル価格推移

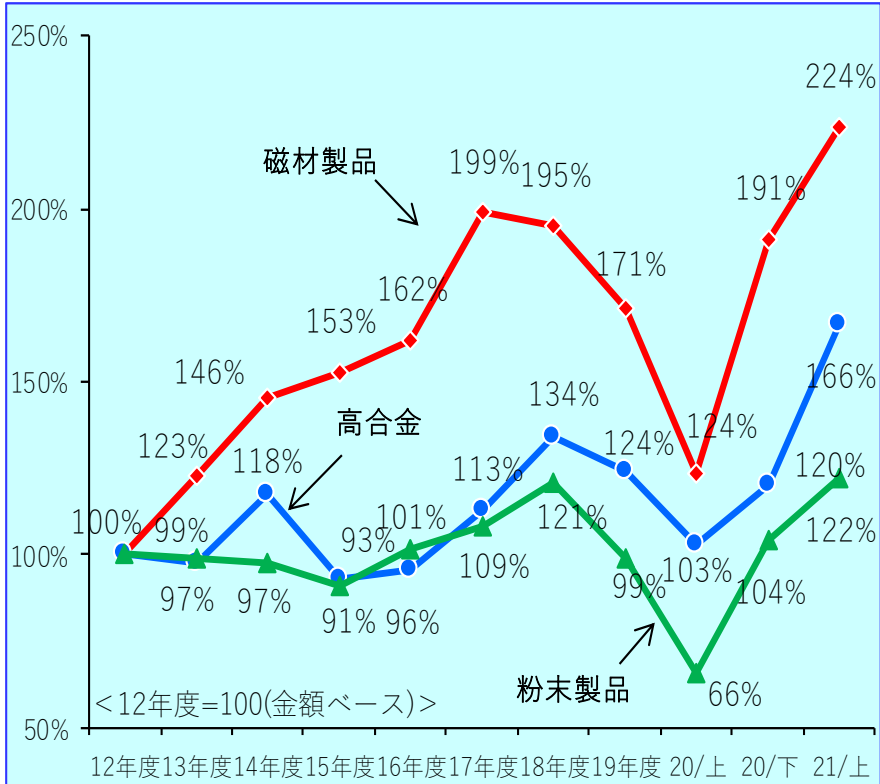


➢ スクラップ：自動車減産によるスクラップ発生減により需給は更にタイト化
➢ ニッケル：需要高位のなか上昇

■ 主要製品 21年度概況②

機能材料・磁性材料

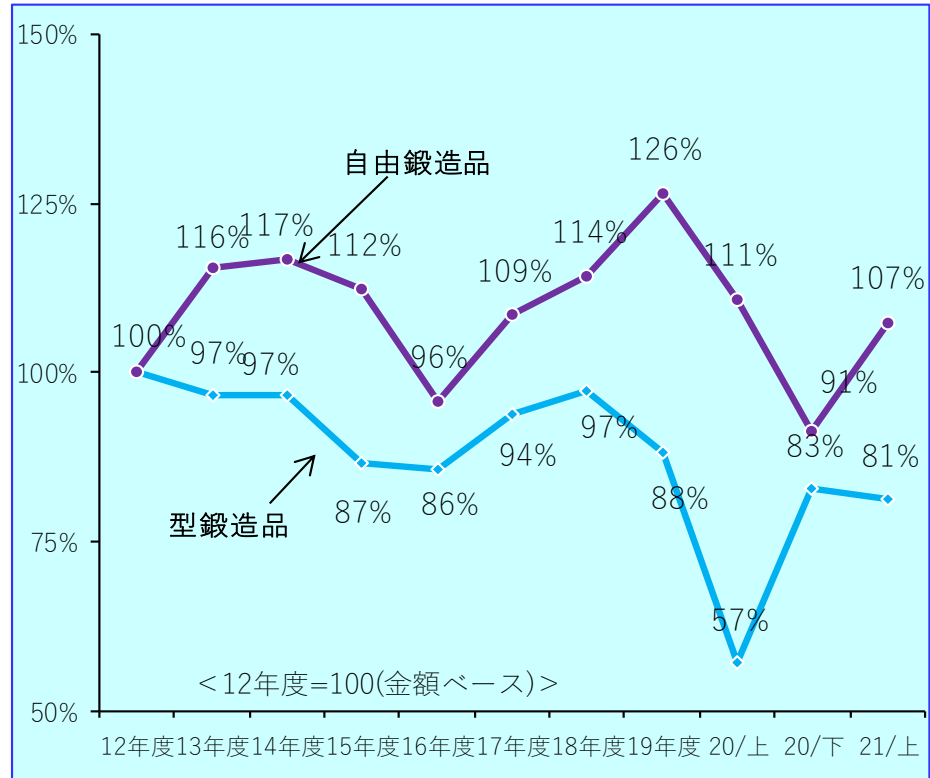
<高合金・磁材製品・粉末製品>



- 磁材製品：駆動モータ用で調整あるもF A 向け中心に需要は高位
- 粉末製品：自動車主体に回復

自動車部品・産業機械部品

<型鍛造品・自由鍛造品>



- 自由鍛造品：航空機向けは依然として低位も重電・半導体需要が増加
- 型鍛造品：自動車関連主体に高位継続

■ セグメント別売上高・営業利益(前年同期差)

(億円)

		20/4-9	21/4-9	前年同期差 (B)-(A)
		実績 (A)	実績 (B)	
特殊鋼鋼材	売上高	598	932	334
	営業利益	▲ 30	15	45
機能材料・磁性材料	売上高	648	948	300
	営業利益	22	139	117
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	361	465	104
	営業利益	▲ 41	31	72
エンジニアリング	売上高	103	87	-16
	営業利益	5	▲ 7	-12
流通・サービス	売上高	85	120	35
	営業利益	9	14	5
合 計	売上高	1,795	2,552	757
	営業利益	▲ 35	192	227

鋼材売上数量(単体)

378 千t

634 千t

256 千t

■ 21/4～9 主要セグメント営業利益変化(前年同期比)

(億円)

セグメント			特殊鋼 鋼材	機能材料 磁性材料	自動車部品・ 産業機械部品	エンジニア リング
20/4-9営業利益			▲30	22	▲41	5
前 年 同 期 対 比 変 化	営 業 損 益	原燃料市況	-144	-37	-7	
		数量変化		+94	+52	
		価格変化		+60	+4	
		内容差他		+39	+5	-12
		変動費		+17	+16	
		固定費	-22	-7	+5	
		決算期変更		+1	+5	
		合計	-166	+211	+79	-12
21/4-9営業利益			15 (+45)	139 (+117)	31 (+72)	▲7 (-12)

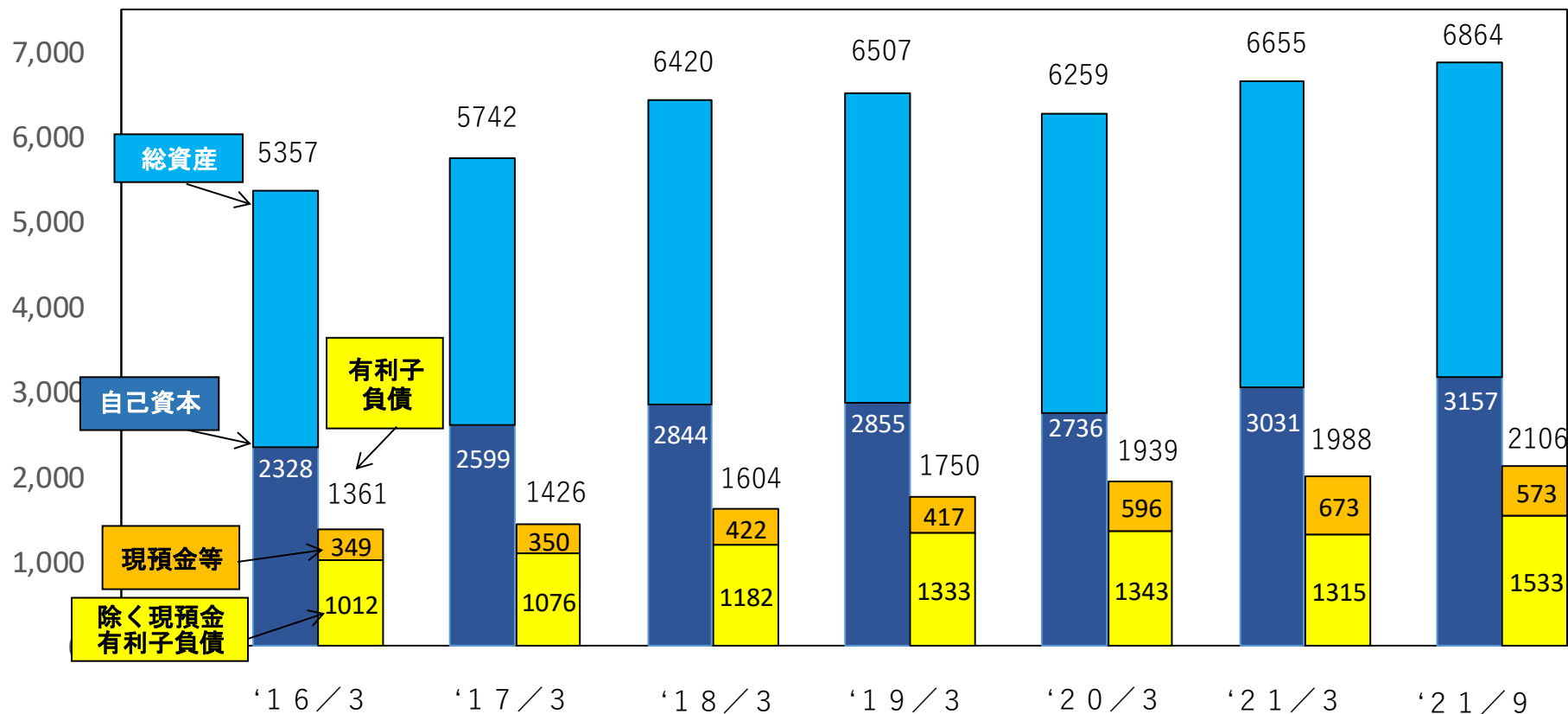
■ 21/4～9 経常利益・当期純利益について

(億円)

営業利益	192
営業外収益・費用	14
経常利益	206
特別損益	▲4
法人税等	▲74
当期純利益 (親会社株主に帰属する四半期純利益)	128

■ 総資産、有利子負債、D/Eレシオ

(億円)



	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	21/9
ROA	4.5%	4.8%	5.9%	5.3%	3.8%	2.0%	6.1%
ROE	2.8%	6.7%	8.8%	7.4%	3.9%	1.6%	8.3%
D/E	0.58	0.55	0.56	0.61	0.71	0.66	0.67

2022年3月期 通期見通し

21年度見直し計画の概要

環境認識

- ◆CY21の世界自動車販売は、半導体不足に加え東南アジアのサプライチェーン寸断による生産減により、CY20対比微増の80百万台を予測。
→自動車生産の更なる減産注視と正常化に向けた増産時期見極め
- ◆工作機械は、国内外の設備投資回復により、半導体関連は様々な分野での需要拡大により、需要は高位で推移。
- ◆鉄スクラップを中心とした原材料価格は上昇・高止まり。
→販売価格への転嫁によるマージンの改善が必達

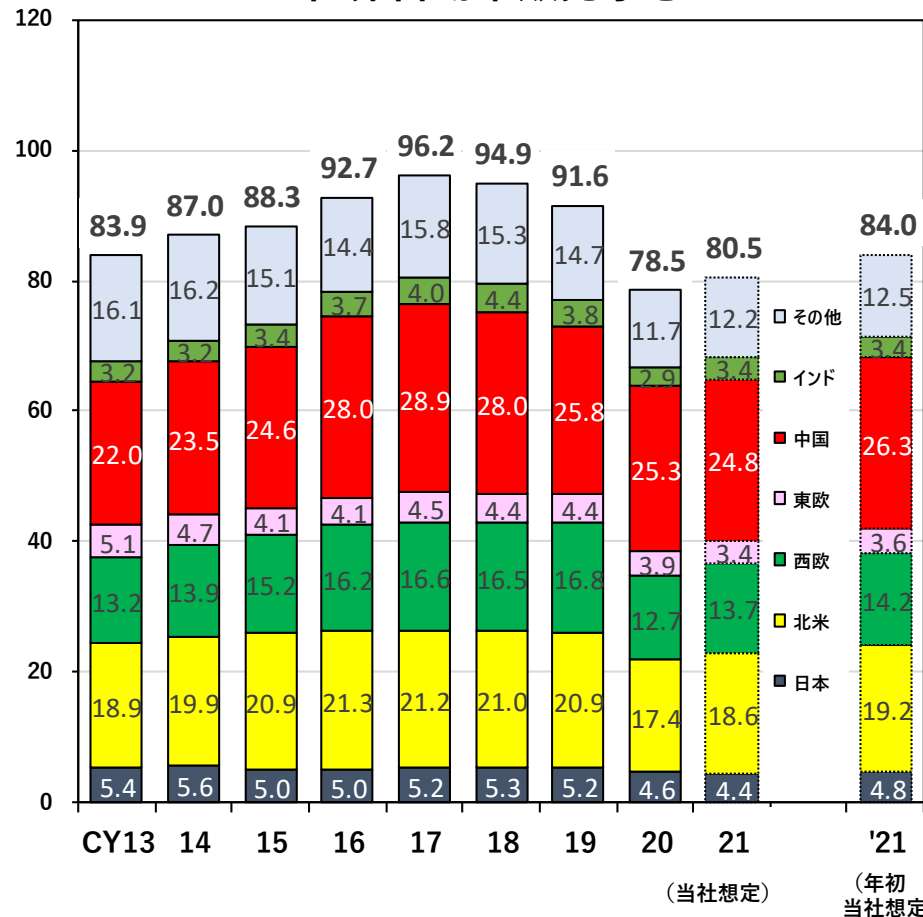
計画前提

- 日系自動車メーカーの生産も、FY20対比微増。ただし、工作機械などの受注高位により鋼材売上数量は1,262千トンで計画。
鋼材売上数量 19年度：1,176千トン/20年度：978千トン/21年度：1,262千トン
- 半導体製造装置需要は高位継続。素形材ビジネスは、航空機低調も重電・半導体主体に需要は高位。フル生産にて対応。

主要市場の動向 <自動車関連>

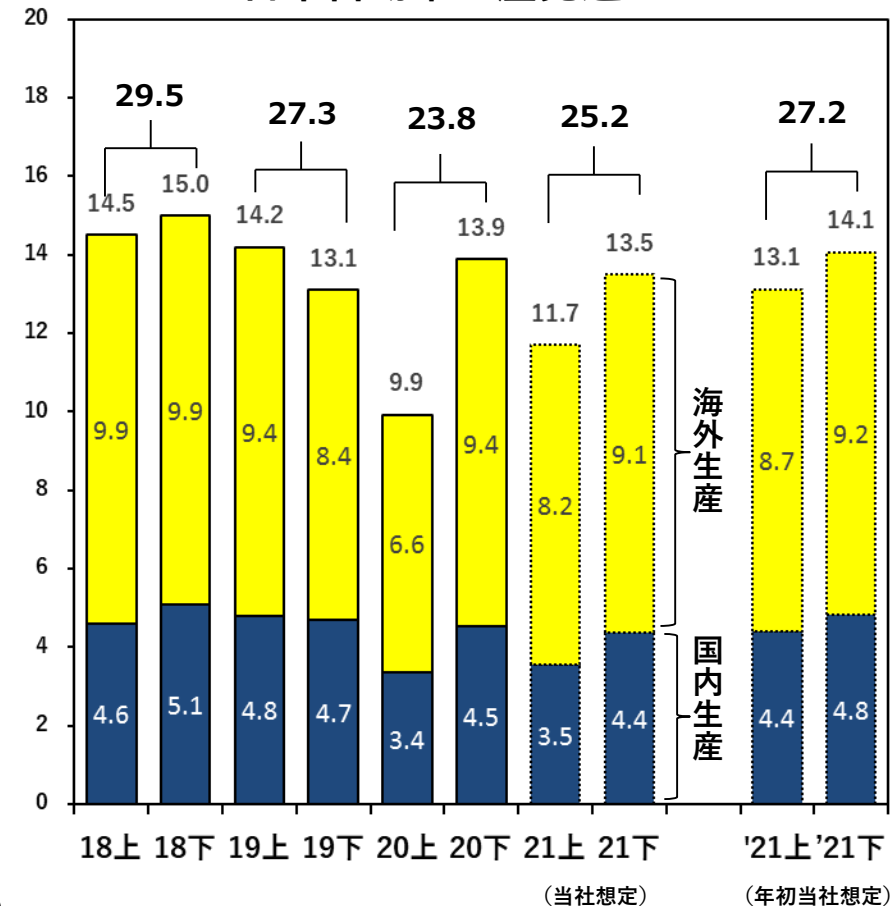
(百万台)

<世界自動車販売予想>



(百万台)

<日系自動車生産見通し>



- ▶ 世界販売：グローバルでの生産減を受け、販売は年初想定より下方修正
- ▶ 日系生産：半導体ならびに部品不足により上期は生産調整も、下期は徐々に正常化へ向かうと想定

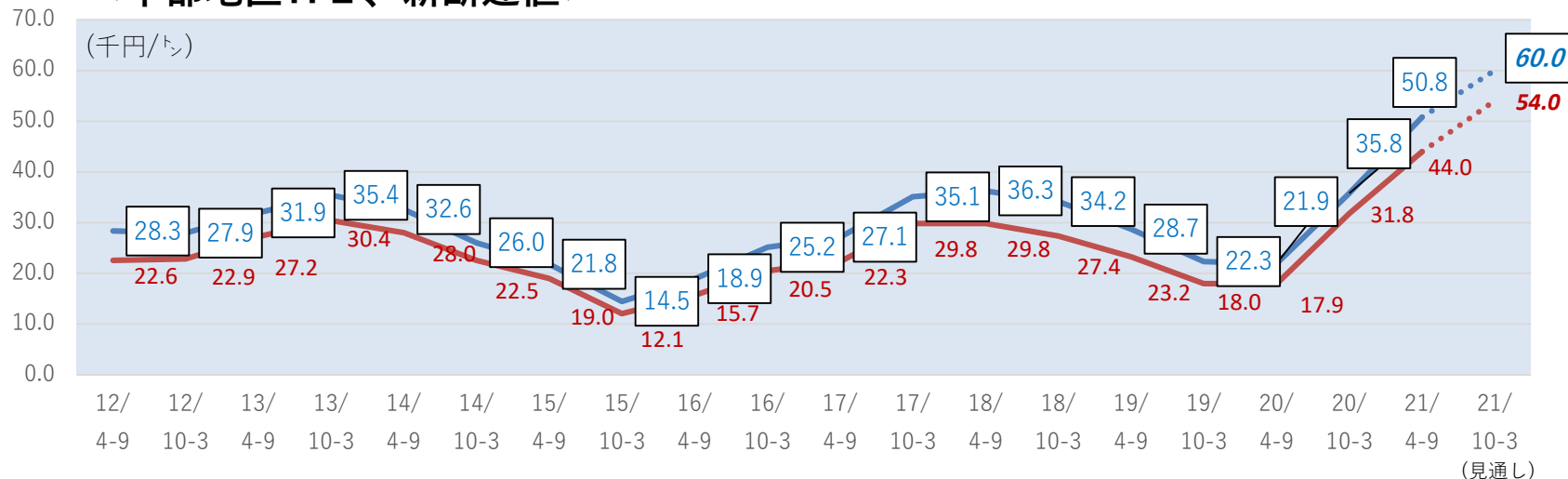
■ 21年度 利益計画の前提(市況)

	単位	21/4-9実績 (前提差)		21/10-3計画前提 (21/4-9 差)	
鉄スクラップ 上段：中部H2建値 下段：中部新断建値	千円/t	44.0	(+6.0)	54.0	(+10.0)
		50.8	(+8.8)	60.0	(+9.2)
ニッケル (LME)	\$/LB	8.3	(-0.2)	9.0	(+0.7)
原油 (ドバイ)	\$/B	68.3	(+8.3)	70.0	(+1.7)
為替レート (TTM)	円/\$	110.8	(+5.8)	115.0	(+4.2)

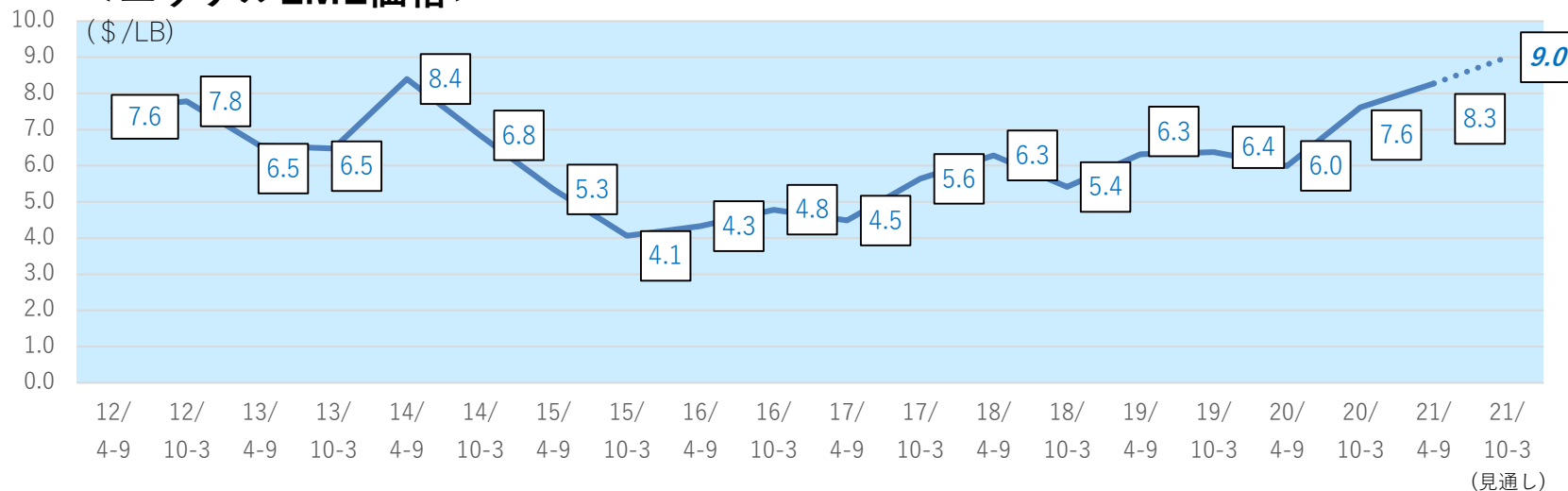
原料市況(鉄スクラップ・ニッケル)

鉄スクラップ/ニッケル価格は過去10年で最高値

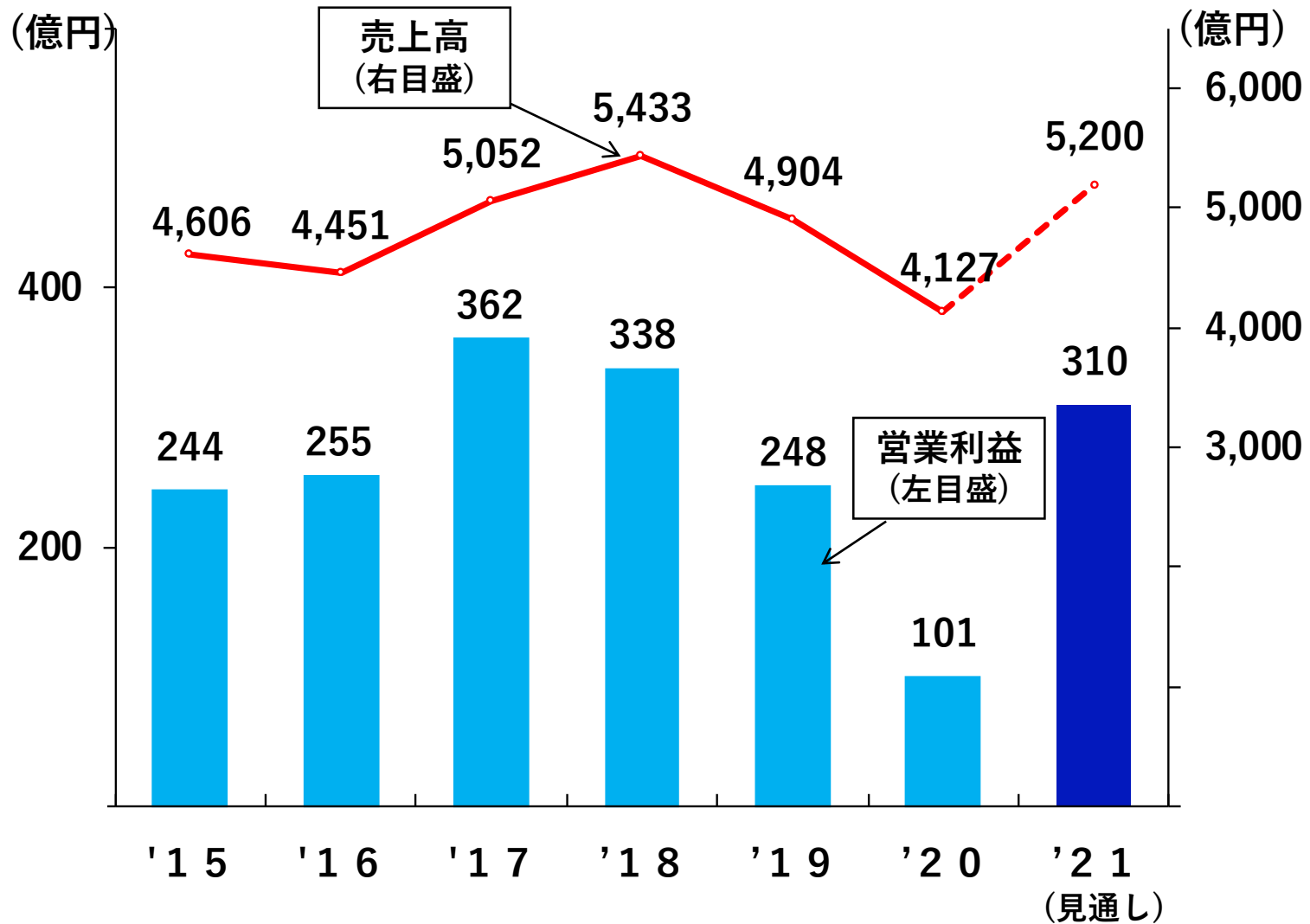
< 中部地区H2、新断建値 >



< ニッケルLME価格 >



21年度通期 連結業績見通し



21年度 営業利益の変化要因(前年度比)

(億円)

20年度 営業利益		101	
前年度 対比 変化	原燃料市況	-511	
	数量変化		+263
	価格変化		+356
	内容差他		+101
	変動費		+48
	固定費	-57	
	決算期変更		+9
合計	-568	+777	
21年度 営業利益		310 (+209)	

変化内訳

原燃料市況

・鉄屑/合金コスト上昇、エネルギーコストも上昇局面へ

数量変化

・特殊鋼鋼材を中心に回復も、部品供給制約により回復ペースは鈍化

価格変化

・鉄屑/合金サーチャージによりプラス
・スライドギャップ影響は△42
(上期△33,下期△9)

内容差他

・工具鋼/自由鍛造品の回復、半導体も堅調に推移も、エンジニアリング低迷
・退職給付債務計算影響△1
(前年度△13,今年度△14)

固定費

・生産増によるコスト増あるも、経費等の前年度圧縮分は維持

■ セグメント別売上高・営業利益(前年度差)

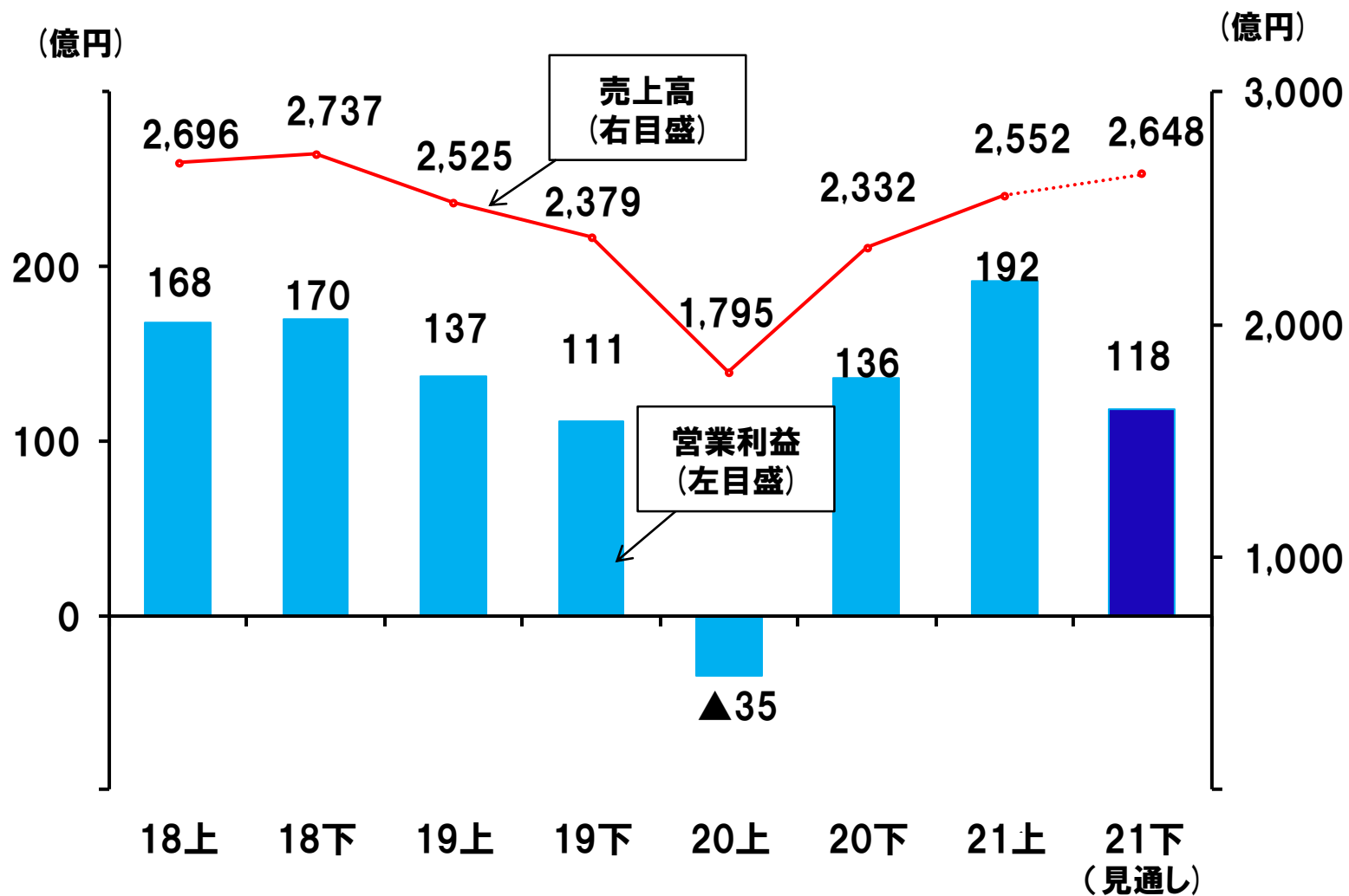
(億円)

		20年度 実績 (A)	21年度 見通し (B)	前年度差 (B)-(A)
特殊鋼鋼材	売上高	1,458	1,950	492
	営業利益	▲ 26	29	55
機能材料・磁性材料	売上高	1,494	1,920	426
	営業利益	122	232	110
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	808	940	132
	営業利益	▲ 21	38	59
エンジニアリング	売上高	202	185	-17
	営業利益	8	▲ 15	-23
流通・サービス	売上高	165	205	40
	営業利益	18	26	8
合計	売上高	4,127	5,200	1,073
	営業利益	101	310	209

鋼材売上数量(単体)

978 千t 1,262 千t 284 千t

21年度通期 連結業績見通し (半期別)



■ セグメント別売上高・営業利益(半期別・上下差)

(億円)

		4-9 実績 (A)	10-3 見通し (B)	21年度 見通し (A)+(B)	21年度 上下差 (B)-(A)
特殊鋼鋼材	売上高	932	1,018	1,950	86
	営業利益	15	14	29	-1
機能材料・磁性材料	売上高	948	972	1,920	24
	営業利益	139	93	232	-46
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	465	475	940	10
	営業利益	31	7	38	-24
エンジニアリング	売上高	87	98	185	11
	営業利益	▲7	▲8	▲15	-1
流通・サービス	売上高	120	85	205	-35
	営業利益	14	12	26	-2
合 計	売上高	2,552	2,648	5,200	96
	営業利益	192	118	310	-74

鋼材売上数量(単体)

634 千t 628 千t 1,262 千t -6 千t

特殊鋼鋼材：スライドギャップ縮小も、発生固定費が増加。燃料/合金価格上昇分は、ベース値上げで対応。更なる値上浸透に向けた営業活動を推進。

機能材料：SUS鋼は微増も、その他製品で数量減。原燃料コスト/発生固定費も増加。

自動車部品：自由鍛造品増加も、ターボ/エンジンバルブで数量減。発生固定費も増加。

スポット要因：上期は決算期統一影響+9、下期は退職給付費用増加-14が実力以外で発生。

21年度 経常利益・当期純利益について

(億円)

営業利益	3 1 0
営業外収益・費用	2 0
経常利益	3 3 0
特別損益	▲ 4
法人税等	▲ 1 0 6
当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	2 2 0

■ 配当について

	20年度		21年度(見通し)	
	中間期	通 期	中間期	通 期
経常利益 (億円)	▲ 2 1	1 2 6	2 0 6	3 3 0
当期純利益 ※(億円)	▲ 2 3	4 5	1 2 8	2 2 0
配当 (円/株)	1 0 . 0	3 5 . 0 (期末 2 5 . 0)	8 0 . 0	1 6 0 . 0 (期末 8 0 . 0)
配当性向 (%)	—	3 3 . 0	2 6 . 6	3 1 . 0

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

23中期方針に則り、年間での配当性向を30%目安とする

■ キャッシュ・フロー

- 21年度上期は鉄屑高騰・受注回復により運転資金の大幅悪化の影響によりフリーキャッシュフローは200億円の大幅マイナス。
- 21年度下期もサーチャージによる売価上昇を主体とした売掛金の増加は見込むも、資産（棚卸等）の増加抑制を志向することで、下期のフリーキャッシュフローは50億円のプラスを見込む。

		21/4-9 実績	21/10-3 見通	通期 見通	
営業 C/F	経常利益	206	124	330	
	減価償却費	135	131	266	
	運転 資金 増減	売掛金	-90	-120	-210
		買掛金	-49	50	1
		棚卸資産	-256	0	-256
			-395	-70	-465
税金他	-38	-30	-68		
		-92	155	63	
投資 C/F	設備投資	-94	-95	-189	
	その他	-14	-10	-24	
		-108	-105	-213	
フリーキャッシュフロー		-200	50	-150	

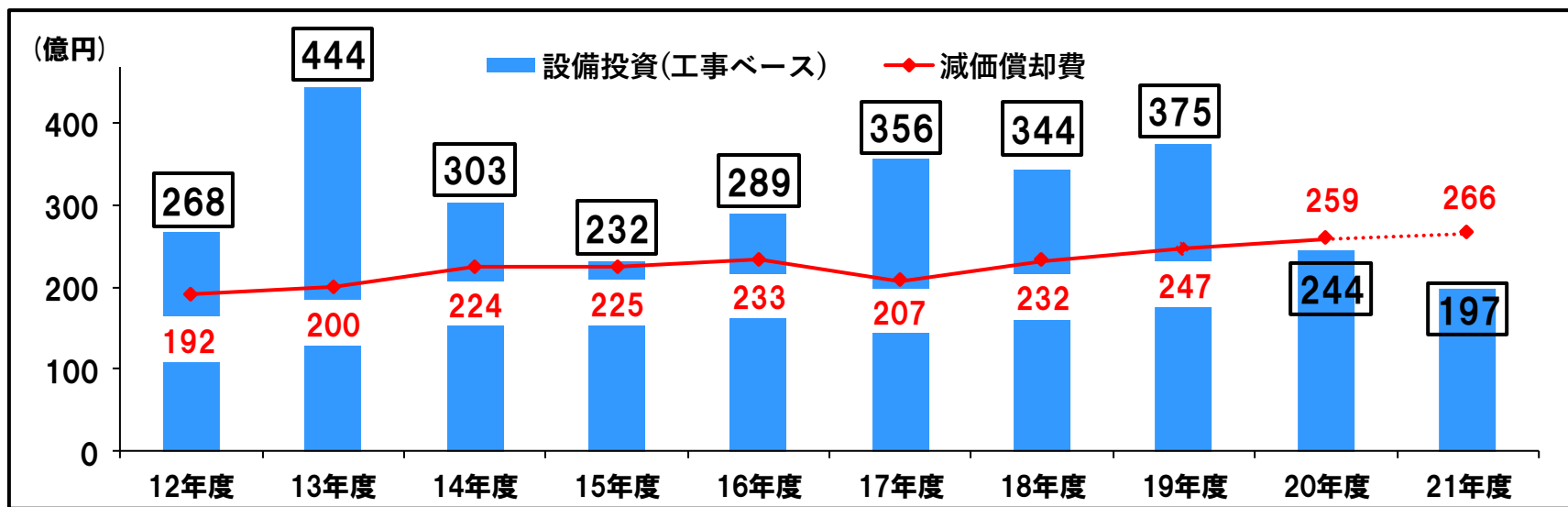
(参考) 21年9月末 貸借対照表 (億円)

科目	21/3	21/9	増減	科目	21/3	21/9	増減
流動資産	3194	3437	243	負債	3262	3338	76
現預金	673	573	-100	営業債務	656	607	-49
営業債権	1259	1349	90	有利子負債	1988	2106	118
棚卸資産	1185	1441	256	その他	618	625	7
その他	77	74	-3				
固定資産	3461	3427	-34	純資産	3393	3526	133
有形固定資産	2318	2286	-32	株主資本	2803	2922	119
無形固定資産	27	30	3	その他包括利益累計額	228	235	7
投資その他資産	1116	1111	-5	非支配株主持分	362	369	7
資産合計	6655	6864	209	資産合計	6655	6864	209

■ 設備投資

- 期初計画から大幅な見直しはなく、事業基盤再構築とSDGs環境投資を中心に推進も、投資内容については昨年度に続き厳選。
⇒ 減価償却費を下回る投資金額を継続。

設備投資・減価償却費推移



ESGの取組み

2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップ (2023中期経営計画より)

カーボンニュートラルへ向けた3つの方針

- 既存技術を結集させた徹底省エネ
- CO₂フリー電源の活用
- 脱炭素技術の導入

~2030

~2050

Scope1

燃料の
脱炭素化

高効率燃焼技術の拡大展開

水素燃焼技術の検証 → バーナー開発 → 工業炉への展開

オンサイトCO₂回収・活用技術導入 (水素電解・メタネーション技術)

Scope2

電力の
脱炭素化

自社・既存省エネ技術の全面展開

CO₂フリー電源への切換 [知多工場→在名地区→全社]

再生可能エネルギー (太陽光) の自社導入・各所展開

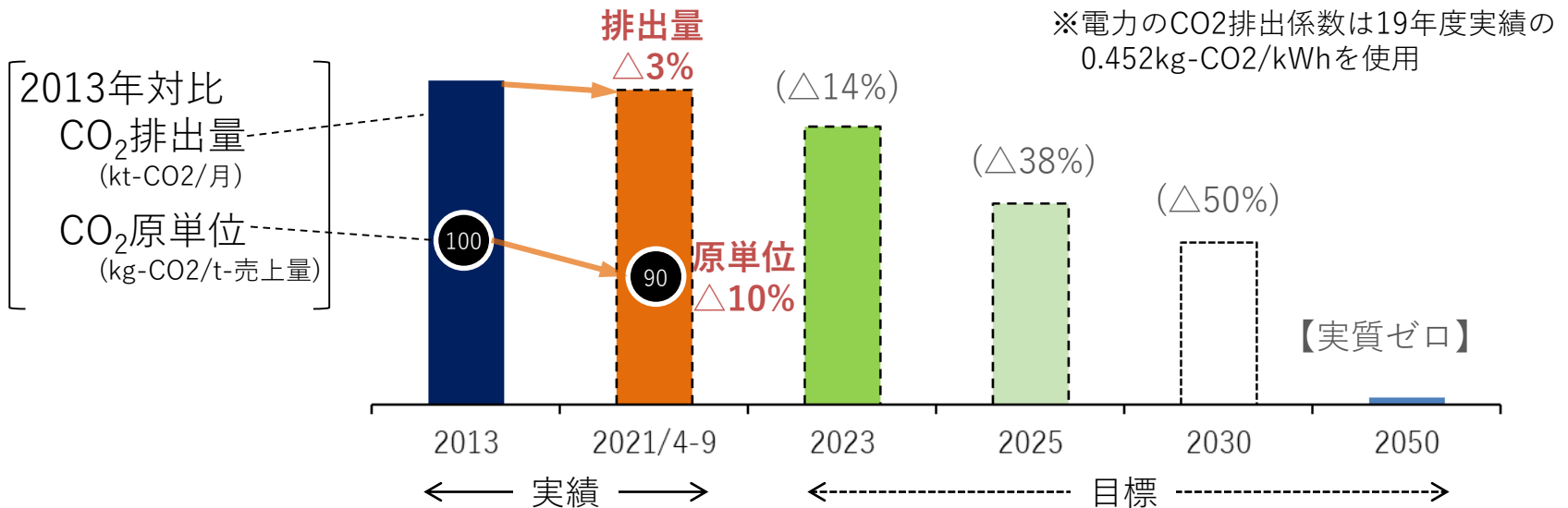
ベース
改善

エネルギーのムダ・ロスの徹底改善、製造歩留改革

ESGの取組み

カーボンニュートラルに向けた取組みの進捗状況

	テーマ	2021年9月までの実績
Scope1 燃料の 脱炭素化	高効率燃焼技術	: 知多工場 排ガス分析、酸素富化バーナー導入決定 (2022年8月完工)
	水素燃焼技術	: STC炉水素混焼テスト開始
Scope2 電力の 脱炭素化	CO ₂ フリー電源	: 使用電力の10%をCO ₂ フリー電力購入開始 (2021年5月~)
	再生可能エネルギー	: 渋川工場、知多第2工場 屋上太陽光発電設置決定 (渋川 2022年7月完工)



ESGの取組み

当社機械事業部製品が、『令和3年度 先進的省エネルギー投資促進事業※1』
【補助金対象設備※2】に認定(業界最多9件)

※1:2050年のカーボンニュートラル実現に向け、資源エネルギー庁が省エネ投資促進を支援する補助事業

※2:SII(一般社団法人環境共創イニシアチブ)が先進設備・システムとして公表した補助対象設備

1. モジュールサーモ

省エネとスキルフリーを両立させた真空浸炭炉。
従来のガス浸炭プロセス対比可燃ガス大幅削減が可能。

2. シンクロサーモ

従来比1/10の小ロット化を実現する真空浸炭炉。
従来のガス浸炭プロセス対比可燃ガス大幅削減が可能。

3. 移動式炉頂スクラップ 予熱設備付き電気炉

溶解期の高温排ガスを追装スクラップと接触させて予熱
(排熱回収)する機構を持つ電気炉。

4. STARQ(旋回式電気炉)

炉体旋回による均一溶解により投入電力を削減する電気炉。



モジュールサーモ



シンクロサーモ



STARQ(旋回式電気炉)

ESGの取組み

当社機械事業部製品が、『令和3年度 先進的省エネルギー投資促進事業※1』
【補助金対象設備※2】に認定(業界最多9件)

※1:2050年のカーボンニュートラル実現に向け、資源エネルギー庁が省エネ投資促進を支援する補助事業

※2:SII(一般社団法人環境共創イニシアチブ)が先進設備・システムとして公表した補助対象設備

5. 雰囲気ガス

流量精密制御装置

炉内雰囲気ガスの精密制御によって可燃ガス使用量削減と安全性を実現する焼鈍炉の雰囲気制御装置。

6. 高効率燃焼システム

(DINCS)

高温の燃焼排ガスによって燃焼空気を予熱する熱交換器を装備するラジアントチューブバーナー。

7. スクラップ予熱設備

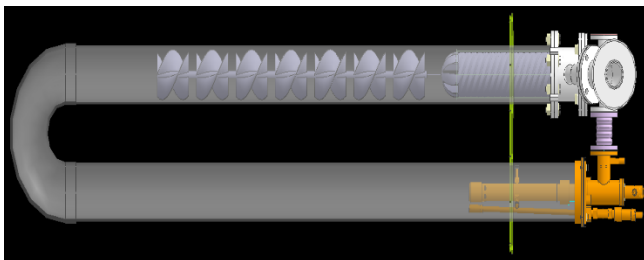
電気炉内高温排熱を活用した高効率スクラップ予熱装置。

8. 非水冷型雰囲気熱処理炉

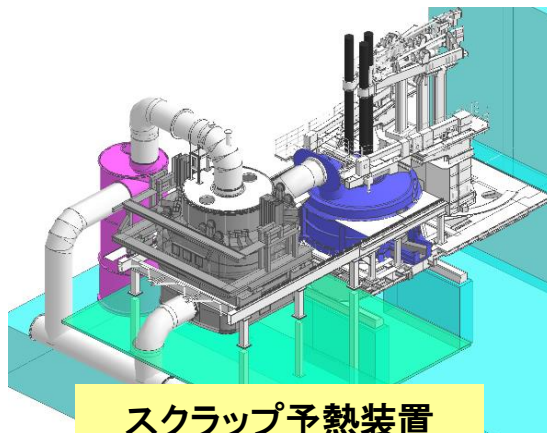
高性能断熱材と最適空燃比によって省エネを実現する焼鈍炉。

9. 溶け落ち判定システム

電気炉内の可聴音・高調波によってスクラップ溶け落ちを自動判定し、操業時間短縮(生産性向上)と省エネに貢献。



高効率燃焼システム(DINCS)



スクラップ予熱装置



非水冷型雰囲気熱処理炉

ESGの取組み



- ✓ 「サステナビリティレポート」に代えて「統合レポート」を発行（2021年11月発行予定）
- ✓ 中長期的な企業価値向上を実現するために、価値創造プロセスや戦略、マテリアリティの進捗を加え、当社の取組みを総合的にわかりやすく伝える報告書として内容を充実。

<主な内容>

- ・大同特殊鋼グループの概要
- ・105年の成長を支えるものづくりの力
- ・価値創造プロセス
- ・SDGsの取組みとマテリアリティの進捗と課題 等

また、今後TCFDへ賛同し、気候変動に関する「リスク」と「機会」の財務影響を開示 ⇒ サステナビリティ情報開示の更なる充実を図る

Fact Book

Fact Book 業績のハイライト

連結

(百万円)

	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	16/9	17/9	18/9	19/9	20/9	21/9
売上高	445,122	505,219	543,255	490,421	412,722	213,010	241,119	269,643	252,476	179,490	255,224
営業利益	25,513	36,218	33,815	24,768	10,070	9,643	18,726	16,752	13,711	▲3,531	19,156
経常利益	26,373	36,130	34,343	24,298	12,642	9,023	18,320	17,569	13,711	▲2,112	20,556
当期純利益	16,386	23,920	21,182	10,987	4,516	5,363	11,890	10,759	11,257	▲2,318	12,840
研究開発費	6,206	5,419	5,638	6,002	4,722	3,158	2,770	2,788	2,896	2,185	2,694
設備投資額(計画)	32,800	38,600	37,200	25,300	12,500	15,800	20,300	18,800	15,100	7,500	13,150
設備投資額(工事)	28,940	35,605	34,413	37,529	24,448	15,791	14,899	15,027	22,092	13,955	10,172
減価償却費	23,275	20,740	23,171	24,662	25,912	11,087	10,023	11,453	12,022	12,794	13,469
金融収支	904	995	1,606	1,297	806	422	429	584	656	459	693
総資産	574,169	642,021	650,697	625,899	665,506	523,304	614,828	661,998	651,112	621,997	686,373
自己資本	259,851	284,435	285,508	273,561	303,143	231,600	274,221	291,948	293,276	276,815	315,674
有利子負債	142,599	160,352	174,998	193,881	198,812	133,172	157,201	174,928	185,536	207,302	210,608
従業員数(人)	11,498	11,873	12,421	13,436	13,109	11,574	11,843	12,559	13,775	13,474	12,838
ROA(%)	4.8	5.9	5.3	3.8	2.0	3.4	6.2	5.4	4.2	▲0.7	6.1
ROE(%)	6.7	8.8	7.4	3.9	1.6	4.6	8.9	7.5	7.8	▲1.7	8.3
連結子会社数	34	36	38	65	66	35	36	38	65	68	65
(持分法適用会社外数)	(6)	(6)	(6)	(9)	(9)	(6)	(6)	(6)	(9)	(9)	(9)
連単倍率(倍)											
売上高	1.7	1.6	1.6	1.6	1.7						
経常利益	1.5	1.7	1.4	1.2	1.4						
当期利益	1.1	1.6	1.3	1.0	0.7						

*減価償却費は長期前払費用含まず。当期純利益は15年度以降、親会社株主に帰属する当期純利益

Fact Book セグメント別売上高・営業利益

連結

<新セグメント(12年4月~)>

(億円)

		17/3	18/3	19/3	20/3	21/3
特殊鋼鋼材	売上高	1,631	1,868	2,078	1,817	1,458
	営業利益	58	65	60	52	▲26
機能材料・磁性材料	売上高	1,485	1,708	1,846	1,674	1,494
	営業利益	174	222	207	136	122
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	975	1,063	1,099	973	808
	営業利益	▲5	30	23	4	▲21
エンジニアリング	売上高	239	249	275	266	202
	営業利益	12	18	23	30	8
流通・サービス	売上高	121	164	135	174	165
	営業利益	16	27	25	26	18
合計	売上高	4,451	5,052	5,433	4,904	4,127
	営業利益	255	362	338	248	101

(億円)

		16/4-9	16/10-3	17/4-9	17/10-3	18/4-9	18/10-3	19/4-9	19/10-3	20/4-9	20/10-3	21/4-9
特殊鋼鋼材	売上高	780	851	903	965	1,020	1,058	971	846	598	860	932
	営業利益	26	32	48	17	21	39	32	20	▲30	4	15
機能材料・磁性材料	売上高	711	774	811	897	927	919	847	827	648	846	948
	営業利益	75	99	108	114	114	93	70	66	22	100	139
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	467	508	517	546	554	545	499	474	361	447	465
	営業利益	▲16	11	11	19	11	12	6	▲2	▲41	20	31
エンジニアリング	売上高	115	124	105	144	126	149	124	142	103	99	87
	営業利益	3	9	7	11	8	15	15	15	5	3	▲7
流通・サービス	売上高	57	64	75	89	69	66	84	90	85	80	120
	営業利益	8	8	13	14	14	11	14	12	9	9	14
合計	売上高	2,130	2,321	2,411	2,641	2,696	2,737	2,525	2,379	1,795	2,332	2,552
	営業利益	96	159	187	175	168	170	137	111	▲35	136	192

(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。